

ティリーと壁（どうするティリー）

その壁はティリーの知る限りずっと前からそこにありました。誰も壁のことや、壁の向こうに何があるかなんて気にしません。でもティリーという一番若いネズミは外に何があるか考えていました。

ある夜、他のネズミが寝ている時、彼女はわらのベッドに横になっていました。しかし目が冴えていて、こんな事を考えていました。壁の向こうには素晴らしい世界があって、不思議な生き物や植物がいるにちがいない、と。「壁の向こうを見てみないと」と、彼女は友達に言いました。彼らは壁を登ってみましたが、壁はどんどん高くなっていくようでした。

長く錆びた釘を使って、彼らは向こうを覗き見る穴を作ろうとしました。「どれだけ頑張ることができるかが問題なんだ！」とティリーは言いました。しかし、一朝かけて努力した末、彼らは硬い岩に小さな穴すら開けることができず、疲れて、諦めてしまいました。

しかしある日、その壁からそう遠くないところで、ティリーは土の中からミミズが這い出てくるのを見ました。どうして彼女はこれまでそのような発想ができなかったのでしょうか。ワクワクでいっぱい、ティリーは穴を彫り始めました。ティリーはぐんぐん穴を掘って、そして突然、眩しい陽の光で目を開けることができなくなりました。とうとう壁の反対側へ出ることができたのです！その景色に彼女は彼女の目を信じることはできませんでした。眼の前にいたのは同じネズミたちだったのです。

そのネズミたちはやってきたティリーを大歓迎してくれました。みんな彼女の栄誉をたたえてスピーチをしたり、旗を振ってくれました。みんな、ティリーが作ったトンネルを使って向こう側がどうなっているのか行くことに決めました。つぎつぎと、ティリーに続きました。みんながティリーのほうのネズミたちに出会うと、そこでもパーティーが開かれました。

みんな、「ティリー！ティリー！」と大声で叫びました。そしてみんな、ティリーを高く胴上げしました。それからは、壁の両側のネズミたちは自由に行き来するようになりました。そしてみんな、その道を示してくれたのはティリーだと言うことをずっと忘れませんでした。